

1. 実施状況

実施回数：13事例/18回（南部：4事例/4回、中部：5事例/9回、北部：4事例/5回）

参加者：介護支援専門員、民生委員・児童委員、自治会長、医療機関、社会福祉協議会、成年後見人、警察、行政機関(庁内関係課、県)、サービス担当者 等

2. 見出された地域課題

- ・家族、地域の認知症の方への関わりの難しさ。
- ・独居高齢者や高齢世帯等、キーパーソンとなり得る人がいない。
- ・高齢者だけでなく家族にも課題がある。
- ・金銭管理が難しいが制度に乗らない人がいる。

- ・精神疾患を抱える人の支援
- ・困り事が顕在化しないまま困り事が多重になる高齢者がいる。
- ・動物飼育に関連する問題を抱える高齢者への支援

等

3. 共通した課題および現在の取り組み

①認知症の人を支える地域づくり

→認知症地域支援推進員による相談体制の強化、地域での認知症サポーター養成講座の実施、出前講座等での認知症に関する正しい知識の普及啓発、チームオレンジ活動の推進

②キーパーソンがいない人の支援

→地域包括支援センターの積極的な関わり、民生委員・児童委員や介護支援専門員との顔の見える関係づくり、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度等の紹介・利用支援

議論：

高齢者がいつまでも住み慣れた地域で安心して生活するために、地域や各団体として、どのような関わりができるか、協力し合えるか。

- 認知症の人の支援

- 地域と関係機関が連携しやすい環境づくり